

最初の授業を行う前日に、指導担当の先生からアドバイスをいただいたことがとても印象に残っている。「授業準備で手をかければかけるほど、生徒たちはより関心をもって学んでくれるようになるよ。」この先生の一言でスイッチが入ったような気がした。たった三週間だから、どうせ自分は実習生だからと言い訳せず、授業にかけられるだけ手をかけたいと感じた。そしてそれをかなえるべく板書の練習をしたり、フラッシュカードや写真を用意したり、積極的にアクティビティを取りいれたりと毎回全力を尽くした。研究授業ではカルタを自作したり、二年生の生徒たちやほかの実習生たちに協力してもらいシミュレーションを行うなど、自分にできる最大限を尽くして準備をした。一年生の授業で”This/That is my~.”を教えるため、自分の持っている文房具をペアの相手に”This/That is my~.”の表現を使って紹介するゲームを行った。その授業の翌日、たくさんの生徒が「ゲーム楽しかったです。もう”This is”も”That is”も使えます!」「ruler も highlighter も覚えました!」と言いにきてくれた。ほかにも、「三角定規は英語でなんて言うんですか?」など、質問にきてくれる生徒もたくさんいた。家に帰ってからも自分のもっている文房具を英語で何というのかを考えてくれていた様子だった。授業で習う事柄を、「テストにでるから」や「覚えなといけないと言われたから」などの受動的な理由で学ぶのではなく、「知りたい」という自発的なモチベーションをもって学ぼうとしてくれていることが何よりうれしかった。私の授業を、関心を持って学ぼうとしてくれる生徒たちの姿勢をみて、がんばってきてよかったと思えた。指導担当の先生のおっしゃったとおり、最大限手をかけて本当によかったと感じた。